

登録コード	UAC69500	開講年度	2026			
授業題目	実験心理学研究				担当教員	今井 章
					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・ 6 時限	
			授業形態	講義		
信大コンピテンシー非該当						
(1)授業の達成目標			授業で得られる「学位授与の方針」		【授業の達成目標】	
2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				人間の心理に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する心理学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有するようになる。		
【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				人間の心理に関わる高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有するようになる。		
(2)授業の概要		担当教員が実験心理学の領域における様々な問題意識，その解決に関わる技法，さらには心理学的現象の数量化についてまず概説し，受講生とその内容についてディスカッションする。授業の後半部では，受講生が，それぞれの興味にしたがって，実験心理学における重要研究についての諸文献をレポーターとして紹介する。そして，その文献で得られた知見の意義やその後の研究への影響力などを，教員とともに考察する。この過程を経て，心理学における実験的研究の重要性和現代社会に対するインパクトについて学ぶ。この一連の過程において各受講生が学んだ成果をレポートとしてまとめる。				
(3)授業計画		第 1 回：授業ガイダンス 第 2 回：実験心理学における問題意識について 第 3 回：実験心理学における研究テーマについて 第 4 回：実験心理学における研究の意義（問題と目的） 第 5 回：実験心理学における研究の意義（仮説と方法） 第 6 回：実験心理学における研究の意義（結果のまとめ方） 第 7 回：実験心理学における研究の意義（考察の仕方） 第 8 回：実験心理学における研究の意義（結論と今後の展開） 第 9 回：実験心理学における重要研究の報告（1970年以前） 第10回：実験心理学における重要研究の報告（1970年代） 第11回：実験心理学における重要研究の報告（1980年代） 第12回：実験心理学における重要研究の報告（1990年代） 第13回：実験心理学における重要研究の報告（2000年代） 第14回：実験心理学における重要研究の報告（2010年代） 第15回：まとめ 期末試験の有無 無				
(4)成績評価の方法		毎回の授業におけるディスカッションへの参加(50 %)と，期末のレポート(50 %)によって評価する。得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上：秀，89-80%：優，79-70%：良，69-60%：可，59%以下：不可。				
(5)成績評価の基準		【卓越している】授業での討論に毎回，的確に参加し，実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，期末レポートの内容が極めて優れている場合は，極めて高い水準にある。 【かなり上にある】授業での討論に毎回，的確に参加し，実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，期末レポートの内容がかなり優れている場合は，非常に高い水準にある。 【やや上にある】授業での討論に毎回，的確に参加し，実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，期末レポートの内容が優れている場合は，高い水準にある。 【その水準にある】授業での討論に毎回，的確に参加し，実験心理学に関する基礎的な知識をもとに，適切な情報処理を行い，論理的に思考し，数量的に思考し，自律的に考え，期末レポートの内容が相当な水準にある場合は，一定水準にある。				
(6)事前事後学習の内容		授業への参加にあたっては，事前に担当教員によって指示された実験心理学における幾つかの論文を講読してくる必要がある。授業内で議論され，指摘された点は事後学習の材料とする。				
(7)履修上の注意		学部での授業において習得した心理学の基礎的知識（心理学概論，心理学研究法，心理実験法，心理統計法など）があることを前提に授業を進める。				
(8)質問,相談への対応		授業での疑問は授業内で解決できるよう，積極的に発言する。その他の場合は，担当教員(imaia ^k r[at]shinshu-u.ac.jp)にアポイントメントを取った上で，個別に相談する。				
【教科書】		使用しない。				
【参考書】		大山正・中嶋義明共編（2012）. 実験心理学への招待〔改訂版〕サイエンス社 2,700円				